

苫前町における
平成27年度全国学力・学習状況調査の結果

平成28年1月

苫前町教育委員会

平成27年8月、北海道教育委員会から、北海道の公立学校における調査結果の概要として、「平成27年度全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」が公表された。

苫前町教育委員会では、この調査結果を受けて苫前町の学力・学習状況を把握し、各学校における指導の工夫改善に生かすために、調査結果の概要をまとめたものである。

◆ 平成27年度全国学力・学習状況調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

ア 小学校調査

- ・小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

イ 中学校調査

- ・中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の内容

1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ・主として「知識」に関する問題〔国語A、算数・数学A、理科〕
- ・主として「活用」に関する問題〔国語B、算数・数学B、理科〕

2) 質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査期日

平成27年4月21日（火）

6 調査実施した学校・児童生徒数

【調査】 北海道（公立）

区分	対象学校	学校数（実施率）	児童生徒数
小学校	1,080	1,076（99.6%）	42,068
中学校	610	606（99.3%）	40,966
合計	1,690	1,682（99.5%）	83,034

7 児童生徒調査の質問内容（質問紙調査）

学習に対する関心・意欲・態度、総合的な学習の時間、学習時間等、学校生活等、家庭でのコミュニケーション、社会に対する興味・関心、自尊意識、規範意識等

■ 苫前町の全国学力調査結果の概要

1 児童生徒の学力状況の概要

【小学校】

区 分	国語A知識 正答率(%)	国語B活用 正答率(%)	算数A知識 正答率(%)	算数B活用 正答率(%)	理 科 正答率(%)
全 国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
北海道	68.1	63.0	72.3	42.5	59.3
苫前町	78.0	71.4	76.4	47.9	61.4

(1) 国語A 主として「知識」に関する問題

*全道平均より、9.9ポイント上回っている。

○特に平均正答率が高いものは、設問1一・三「漢字を正しく読む」(100%)、設問4「説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する」(96.2%)などの問題である。

●課題が見られるものは、設問3「話の内容に対する聞き方を工夫する」(50.0%)で、相手の話を聞く際には、話の目的や意図を捉えながら内容を十分聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点などを整理して聞くことが重要である。

□今後は、

①目的や意図に応じて聞き方を工夫するために、聞くことの学習の機会を意図的・計画的に設定して、考えたことをまとめることができるように指導する必要がある。

(2) 国語B 主として「活用」に関する問題

*全道平均より、8.4ポイント上回っている。

○特に平均正答率が高いものは、設問2ア「目的に応じ、中心となる語や文を捉える」(96.2%)などの問題である。

●課題が見られるものは、設問1三「目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く」(34.6%)で、事実と感想、意見などを区別すると共に取材した複数の内容を整理して書くことが重要である。設問2三「文章と図とを関係付けて自分の考えを書く」(53.8%)で、図表やグラフなどが用いられている文章や新聞記事の読み取りを意図的に増やすことが重要である。

□今後は、

①読み手に伝えたいことの中心を明確にした上で、自分で調べた内容や取材した事柄の中から取捨選択し、整理して記事を書く指導をする必要がある。

②図表やグラフの内容が文章のどこに取り上げられているのか、図表やグラフがあることによって文章がどのようにわかりやすくなっているのかなど、文章と図表やグラフなどとの関係を捉えることができるように指導する必要がある。

(3) 算数A主として「知識」に関する問題

*全道平均より、4.1ポイント上回っている。

○特に平均正答率が高いものは、設問 2 (1)「繰り上がりのある加法計算」(100%)など、四則計算に関するものである。

●課題が見られるものは、設問 4 (2)「180 度や 360 度を基に分度器を用いて 180 度よりも大きい角の大きさを求めることができる」(46.2%)で、分度器を用いた角の大きさの測定や作図の技能の定着を図ることが重要である。

□今後は、

①角の大きさの見当を付ける活動や、見当付けの結果と測定の結果について振り返って確かめる活動をする必要がある。

(4) 算数B主として「活用」に関する問題

*全道平均より、5.4ポイント上回っている。

○特に平均正答率が高いものは、設問 1 (1)「平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している」(96.2%)である。

●課題が見られるものは、設問 2 (2)「示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる」(3.8%)で、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることが重要である。設問 5 (1)「長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる」(15.4%)で、算数の学習から見いだした考えを、条件を変更した場面に活用して、発展的に考察することが重要である。

*今後は、

①各数量を図や数直線に表すことなどを通して、数量の関係を整理して捉えた上で、基準量を求めることができるようにすることが必要である。

②前提となる考えや理由などの根拠を明らかにして、論理的に考えたり説明したりすることが必要である。

(5) 理科に関する問題

*全道平均より、2.1ポイント上回っている。

○特に平均正答率が高いものは、設問 3 (1)「水蒸気は水が気体になったものであることを理解している」(92.3%)、設問 3 (4)「メスシリンダーの名称を理解している」(100%)などの問題である。

●課題が見られるものは、設問 2 (5)「植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述できる」(26.9%)で、それまでの学習を通して獲得した知識を実際の自然や日常生活の事物・現象に当てはめて考えることが重要である。設問 4 (1)「方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できる」(23.1%)で、方位を捉えながら月や星を観察することができるようにすることが重要である。

□今後は、

①日光の当たり方の違いによって同じ種類の植物でも成長の様子に違いが見られることを捉えたり、これまでの栽培経験から植物を育てる際には、鉢を日光がよく当たる場所に置くようにしたことを想起したりすることが必要である。

②観察前の授業において方位磁針の使い方や教室での方位を確認した上で、家庭でも方位を正確に捉えた月や星の観察ができるようにすることが必要である。

【 中学校 】

区 分	国語A知識 正答率 (%)	国語B活用 正答率 (%)	数学A知識 正答率 (%)	数学B活用 正答率 (%)	理 科 正答率 (%)
全 国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
北海道	75.8	65.7	63.0	39.7	53.3
苫前町	79.2	70.2	66.9	47.3	58.5

(1) 国語A 主として「知識」に関する問題

*全道平均より、**3.4**ポイント上回っている。

- 特に正答率が高いものは、設問1ー「スピーチの途中で聞き手の反応を見て、とった対応として適切なものを選択する」(100%)、設問3三「嘉助の言動から読み取れる様子として適切なものを選択する」(100%)、設問9ー「漢字を書く」(100%)、設問9三ア「適切な語句を選択する」(100%)、設問9三カ「適切な語句を選択する」(100%)である。
- 課題が見られるものは、設問9四②「「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する」(22.7%)、設問9三オ「適切な語句を選択する」(31.8%)、設問9六「手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する」(45.5%)である。

□今後は、

- ①単語を正しく類別するには、単に文法的な知識として学習するだけでなく、具体的な文章を通して考えるように指導することが大切である。
- ②語句の意味について理解を深めるには、語句の辞書的な意味を基にして、文脈に即して意味を考えるように指導することが大切である。
- ③手紙を書く際には、伝える相手の立場や気持ちに配慮し、手紙の基本的な形式を理解して書くように指導することが大切である。

(2) 国語B主として「活用」に関する問題

*全道平均より、**4.5**ポイント上回っている。

- 正答率が高いものは、設問1二「フリップを作成する際に取り入れたポイントとして適切なものを選択する」(100%)、設問3ー「「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択する」(95.5%)、設問1ー「ノートのその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択する」(81.8%)である。
- 課題が見られるものは、設問3三「文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く」(27.7%)、設問2三「資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く」(40.9%)などである。

□今後は、

- ①文章の展開について自分の考えをもつためには、作品の全体像を捉えた上で、場面の役割を分析的に考える必要がある。
- ②多様な情報に触れながら問題意識をもったり新たな発想を得たりするためには、複数の本や資料から得た情報を自分と結び付けて考えることが必要である。

(3) 数学A主として「知識」に関する問題

*全道平均より、3.9ポイント上回っている。

○特に正答率が高いものは、設問1(1)「 $12:9$ と等しい比を選ぶ」(100%)、設問4(1)「線対称な図形を完成する」(100%)、設問9「 y が x の関数でない事象を選ぶ」(100%)、設問12(2)「時間と道のりの関係を表すグラフを基に、出発してから15分後にいる地点までの家からの道のりを求める」(95.5%)の問題である。

●課題が見られるものは、設問2(2)「赤いテープの長さが a cmで、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ 倍のとき、白いテープの長さを a を用いた式で表す」(13.6%)、設問7(3)「与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ」(31.8%)、設問8「対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ」(31.8%)などである。

□今後は、

- ①関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるように指導することが大切である。
- ②平行四辺形の作図の過程や具体物にみられる平行四辺形になるための条件を指摘する活動を取り入れ、平行四辺形になるための条件を具体的な場面で捉え、それを用いることが出来るように指導することが大切である。
- ③対頂角の性質や三角形の内角の和、平行四辺形の性質などの学習において、帰納的な方法による説明と比較しながら、演繹的な推論による説明の役割を理解する場面を設定し、証明の必要性和意味について理解を深められるように指導することが大切である。

(4) 数学B主として「活用」に関する問題

*全道平均より、7.6ポイント上回っている。

○正答率の高いものは、設問2(1)「連続する3つの整数が19、20、21のとき、それらの和が中央の整数の3倍になるかどうかを確かめる式を書く」(90.8%)である。

●課題が見られるものは、設問1(1)「投映距離と投映画面の高さの関係を式で表す」(13.6%)、設問1(3)「映像の明るさを2倍にするための投映画面の面積の変え方を選び、その理由を説明する」(18.2%)、設問3(2)「四角形EFGHがいつでも平行四辺形になるように点Fの位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する」(22.7%)などである。

□今後は、

- ①事象を数学的に考察する場面を取り入れ、図や表などで与えられた情報から目的に応じて必要な情報を選択し、的確に処理することができるように指導することが大切である。
- ②日常的な事象における3つの数量の関係について、言葉で表された式を取り上げ、3つの数量のうち1つを定数とみて、残りの2つの数量の関係を捉える場面を設定し、その式の数学的な意味を考えられるように指導することが大切である。
- ③様々な問題を解決できるようにするために、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、図形の性質などを「用いるもの」とその「用い方」について明らかにすることができるように指導することが大切である。

(5) 理科に関する問題

*全道平均より、5.2ポイント上回っている。

○正答率の高いものは、設問7(2)「キウイフルーツがゼラチンや寒天を分解する働きを説明した記述として適切なものを選ぶ」(95.5%)、設問2(1)「天気図から風力を読み取る(90.9%)」、設問1(1)「塩化ナトリウムの化学式を選ぶ」(86.4%)である。

●課題が見られるものは、設問2(3)「湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明した他者の考えを検討して、誤っているところを改善する」(0.0%)、設問1(2)「同じ量の水に同じ量の炭酸水素ナトリウムと硫酸ナトリウムをそれぞれ加えたとき、どちらが炭酸水素ナトリウムであるかを選ぶ」(13.6%)、設問3(1)「13時から16時の四つの気象観測の記録から、最も高い湿度を選ぶ」(27.3%)などである。

□今後は、

- ①科学的な思考力や表現力を育成する上で、考察などをより適切にするために検討して改善する際は、多面的、総合的にできるようにすることが大切である。
- ②科学的な思考力や表現力などを育成する上で、観察・実験の結果を分析して解釈できるようにすることが大切である。
- ③科学的な思考力や表現力を育成する上で、気象現象の観察や観測の記録から、気象要素の変化と相互の関連を推定できるようにすることは大切である。

2 児童生徒の学習状況の概要

[学習状況調査結果の傾向]

質問紙調査は、子どもたちの生活習慣や学習環境などについての質問で構成されており、学習意欲、学習環境、生活の諸側面等に関する調査内容となっている。

本調査において、「している」「どちらといえばしている」と肯定的に回答した児童生徒が80%を超えたものを高い傾向、60%未満を低い傾向として分類した。

◆ 苫前町の児童生徒が高い傾向(80%以上)を示した質問事項

○ 小学校・中学校共通

- *朝食を毎日食べている。
- *毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- *ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。
- *難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。
- *自分にはよいところがあると思う。
- *友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
- *将来の夢や希望をもっている。
- *家の人は、授業参観や運動会などの学校の行事に来る。
- *家で学校の授業の復習をしている。
- *学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めている。
- *新聞やテレビのニュース番組などを見る。
- *学校のきまりを守っている。
- *人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。

- *いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- *人の役に立つ人間になりたいと思う。
- *「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役立つと思う。
- *「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- *前の学年までの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。
- *前の学年までの授業では、授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていた。
- *前の学年までの授業では、授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた。
- *国語の勉強は大切だと思う。
- *国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- *国語の問題において、解答を文章で書く問題の時、全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- *算数（数学）の勉強は大切だと思う。
- *算数（数学）の授業の内容はよく分かる。
- *算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- *自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある。
- *観察や実験を行うことが好きだ。
- *調査時間の解答は十分だった。（国語 A）

○小学校のみ

- *家の人と学校での出来事について話をしている。
- *5年生までの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う。
- *5年生までの授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた。
- *5年生までの授業では、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた。
- *授業の中で分からないことがあったら、誰かに尋ねたり、自分で調べたりしている。
- *国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる。
- *算数の勉強は好きである。
- *算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う。
- *算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
- *算数の問題において、言葉や数、式を使ってわけや求め方などを書く問題の時、最後まで解答を書こうと努力した。
- *理科の勉強は好きだ。
- *理科の勉強は大切であると思う。
- *理科の授業の内容はよく分かる。
- *理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- *理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。
- *理科の授業では、理科室で観察や実験を月1回以上行った。

- *理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
- *理科の問題では、言葉や文章などを使って最後まで解答を書こうと努力した。
- *調査時間の解答は十分だった。(国語B)
- *調査時間の解答は十分だった。(算数A)
- *調査時間の解答は十分だった。(理科)

○中学校のみ

- *毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- *家で学校の宿題をしている。
- *学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。
- *今住んでいる地域の行事に参加している。
- *国語の授業の内容はよく分かる。
- *国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。
- *数学ができるようになりたいと思う。
- *数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法で考える。
- *数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。

◆ 苫前町の児童生徒が低い傾向(60%未満)を示した質問事項

○ 小学校・中学校共通

- *新聞を読んでいる。
- *将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う。

○小学校のみ

- *地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。
- *国語の勉強は好きだ。

○中学校のみ

- *家の人と学校での出来事について話をしている。
- *家で学校の授業の予習をしている。
- *2年生までの授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた。
- *400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思わない。
- *学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思わない。
- *数学の勉強は好きである。
- *数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- *理科の勉強は好きだ。
- *理科の授業の内容はよく分かる。
- *理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- *理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。
- *理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている。

- *理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
- *理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返っている。
- *理科の問題において、解答を文章などで書く問題の時、全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- *調査時間の解答は十分だった。(数学B)

◆苦前町の児童生徒が全道より5ポイント以上高い傾向を示した質問事項

○小学校・中学校共通

- *朝食を毎日食べている。
- *難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。
- *自分にはよいところがあると思う。
- *友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。
- *将来の夢や希望をもっている。
- *自分で計画を立てて、家で勉強している。
- *家で学校の授業の予習をしている。
- *家で学校の授業の復習をしている。
- *今住んでいる地域の行事に参加している。
- *地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。
- *新聞を読んでいる。
- *「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役立つと思う。
- *「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- *前の学年までの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。
- *前の学年までの授業では、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた。
- *前の学年までの授業では、授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていた。
- *400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思わない。
- *学級内で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- *国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。
- *国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。
- *国語の問題において、解答を文章で書く問題の時、全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- *算数(数学)の授業の内容はよく分かる。
- *算数(数学)の問題において、言葉や数、式を使ってわけや求め方などを書く問題の時、最後まで解答を書こうと努力した。

○小学校のみ

- *毎日、同じくらいの時刻に起きている。

- *家の人と学校での出来事について話をしている。
- *学校のきまりを守っている。
- *5年生までの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う。
- *5年生までの授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいた。
- *学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思わない。
- *授業の中で分からないことがあったら、誰かに尋ねたり、自分で調べたりしている。
- *国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいく。
- *算数の勉強は好きである。
- *算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う。
- *算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- *理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- *理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- *理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている。
- *調査時間の解答は十分だった。(国語A)
- *調査時間の解答は十分だった。(国語B)
- *調査時間の解答は十分だった。(算数A)
- *調査時間の解答は十分だった。(算数B)
- *調査時間の解答は十分だった。(理科)

○中学校のみ

- *毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- *家の方は、授業参観や運動会などの学校の行事に来る。
- *家で学校の宿題をしている。
- *学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。
- *地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。
- *新聞やテレビのニュース番組などを見る。
- *いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- *前の学年までの授業では、授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていた。
- *国語の勉強は大切だと思う。
- *国語の授業の内容はよく分かる。
- *国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- *国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。
- *数学の勉強は大切だと思う。
- *数学ができるようになりたいと思う。
- *数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法で考える。
- *数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- *数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。

- *自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある。
- *理科の授業では、理科室で観察や実験を月1回以上行った。
- *理科の問題において、解答を文章などで書く問題の時、全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した。

◆苦前町の児童生徒が全道より20ポイント以上低い傾向を示した質問事項

○小学校のみ

- *家で学校の宿題をしている。

○中学校のみ

- *調査時間の解答は十分だった。(国語B)
- *調査時間の解答は十分だった。(数学B)

〔 児童生徒質問紙から読み取れる傾向 〕

質問内容		児 童		生 徒	
		本町	全道	本町	全道
月～金曜日、1日あたり 「テレビやビデオ・DVD」を 観たり聴いたりする時間	2時間以上	69%	62%	27%	40%
	4時間以上	23%	22%	5%	16%
月～金曜日、1日あたり 「テレビゲーム」をする時間	1時間以上	65%	63%	55%	49%
	4時間以上	12%	13%	5%	14%
月～金曜日、1日あたり 「インターネット」をする 時間	1時間以上	31%	21%	50%	39%
	4時間以上	4%	4%	0%	12%
携帯電話やスマートフォンを持っている		52%	58%	57%	86%
月～金曜日、1日あたり 学校以外での学習時間（1時間以上）		57%	58%	55%	64%
休日1日あたりの学習時間（1時間以上）		70%	50%	55%	45%
学習塾（家庭教師含む）で勉強している		22%	12%	39%	9%
月～金曜日、1日あたり 読書をする時間	30分以上	50%	37%	18%	26%
	2時間以上	12%	8%	0%	7%
昼休みや放課後、休日に、本を読んだり、借 りたりするために、学校図書館や地域の図書 館へ月1回以上行く		50%	36%	18%	17%

〔 質問紙調査の結果 〕

<学習に対する関心・意欲・態度>

- 「国語の勉強が好きですか」の質問では、「好き」・「どちらかといえば好き」の割合は、全道と比べ小学生では低かったが、中学生ではほぼ同じであった。
- 「算数・数学の勉強が好きですか」の質問では、「好き」・「どちらかといえば好き」の割合は、全道と比べ小学生では高かったが、中学生ではほぼ同じであった。
- 「理科の勉強が好きですか」の質問では、「好き」・「どちらかといえば好き」の割合は、全道と比べ小学生ではほぼ同じであったが、中学生では低い結果であった。

<学習時間等>

- 家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。
- 学校の宿題をしている児童生徒の割合は、全道と比べ小学生では低かったが、中学生では高かった。
- 家で学校の授業の予習復習をしている児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。

<基本的な生活習慣>

- 朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。
- 毎日同じくらいの時刻に寝ている児童生徒の割合は、全道と比べ小学生はほぼ同じであったが、中学生では高かった。
- 毎日同じくらいの時刻に起きている児童生徒の割合は、全道と比べ小学生では高かったが、中学生ではほぼ同じであった。

<家庭でのコミュニケーション>

- 家の人と学校での出来事について話をする児童生徒の割合は、全道と比べ小学生では高かったが、中学生では低い結果であった。

<地域との関わり>

- 住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。

<社会に対する興味・関心>

- 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある児童生徒の割合は、全道と比べ小学生ではほぼ同じであったが、中学生では高い結果であった。
- 地域や社会をよくするために何をなすべきか考えることがある児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。
- 新聞を読んでいる児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。
- テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。